

第6回 公開例会(2016・9・17)

—英語俳句— A HAIKU A DAY (一日一句)

俳句に魅せられた英国人が講演

スティーヴン ギル
Stephen Gillさん

この日はIINの会員以外の人たちにも参加を呼びかけた公開例会で、イギリス人のスティーヴン・ギルさんが、「—英語俳句—“A HAIKU A DAY”(一日一句)」と題して講演してくれました。18歳の時、松尾芭蕉の作品の翻訳本に出合って俳句に魅せられ、ロンドン大学で日本語と日本文学を学び、卒業後、放送作家などをしながら英国ハイク協会の役員として活躍。日本女性と結婚し、来日後の95年からは京都の嵯峨野に住んで、英語俳句サークルの代表を務める一方、大学講師などをしながら嵯峨野の環境保全運動にも力を入れています。



ハイクのすばらしさを語る
スティーヴンさん

俳句と haiku

英語ハイク理解のためにスティーヴンさんはまず、一例を紹介しました。

On the doorstep
An inch or two of snow:
The huge night sky

情景の説明は—

先ほどまで降っていた雪。玄関のドアを開けると数センチの真っ白な雪が積もっている。

見上げると、漆黒の広大な空に星が瞬く。

白や黒の対比。広大な宇宙の中の無数の星…。

スティーヴンさんの説明では、作者は60代の英国人女性だが、「子供心に帰って feeling of wonder が表現されています」と解説します。

日本の俳句と同様、「雪」という季語がある。簡潔で、切れ (snow の後ろ : で表現) があり、余韻 (resonance) を残し、読み手の自由な想像を膨らませる。

スティーヴンさんは「私は、これは良い句だと思っています。日本人ならこの句を理解できるでしょう」と言い、俳句が欧米など、多くの国で詠まれている大きな理由はこの①簡潔さ②余韻、だと言うと話しました。

加えて、芭蕉らの俳句、紫式部の源氏物語、吉田兼好の徒然草 (随筆)、叙事詩の平家物語など日本文学は fantastic だと称賛しました。

なお、英語の haiku の発音は「ハイクー」とク(u)の部分にアクセントがあるということです。

言語の違いから、単音節 5・7・5 で表現する日本の俳句とは違いがありますが、それぞれの国の言語に合わせたハイクが作られ、short poem として親しまれている。海外でのハイクの歴史はすでに 100 年を超えるということです。

シェイクスピアの詩より芭蕉の句

スティーヴンさんは若いころ、ヨーロッパの典型的な詩であるシェイクスピアに興味をもっていました。が、シェイクスピアが詠んだバラのソネット（14行詩）と、芭蕉が詠んだスミレ草の句を比較した時、スミレの句は「人生の一瞬を捉えたなんと美しいポエムか」と感じました。シェイクスピアの詩は、枯れても甘い香りを漂わせ、存在感を残すバラを詠んだものですが、叙事的、哲学的であると感じた、ということです。

そのスミレの歌というのはー

山路来て何やらゆかし堇草

もちろん、当時 18 歳で日本語はわからないスティーヴンさんが見たのは湯浅信之・広島大教授による英訳文だった。それによるとー

I picked my way
Through a mountain road,
And I was greeted
By a smiling violet.

(trans. Nobuyuki Yuasa)

山歩きや旅が好きで、草花を愛するスティーヴンさんは「すばらしい瞬間を捉えている」と感心。カメラで良いスナップを残すように、俳句に残して家族や友人と語り合っ
て楽しむ。そう思って、オクスフォード大学で学ぶ予定だった地質学や中国語を捨て
1972 年からハイクを作り始めました。

この地こそ我が家

大学時代はトルコ、イラン、アフガニスタン、インド、ヒマラヤなどを旅行。もちろ
ん、haiku をつくりながら。金がなくなり一旦、ロンドンに戻り、仕事で金をつかって、
今度はヒッチハイクでシベリア経由横浜へ。1974 年だった。そして、日本に到着し
て初めて作ったハイクのひとつが

Something tells me
This is home:
Perhaps the mountain pigeon
Cooing in the pine

(Tito, Yamanaka, 29.8.74)

山中という地の静かな松林の中で、キジバトがクークー鳴いているのを聞いて、「こ
の地（日本）こそ、我が家だ」と感じたという句だ。作者の名前に Tito とあるのはス
ティーヴンさんの俳号。

「芭蕉、一茶、蕪村、スティーヴン・ギルではゴロが良くない。芭蕉、一茶、蕪村、
Tito のほうがいい感じ、と思ってつけました。Tito は私の家族のニックネームからき
ています」。

日本の女性と結婚。母国に戻り BBC(英国放送協会)で放送作家として働き、英国俳
句協会の初期の委員を務め、1994 年、芭蕉の没後 300 年記念祭を企画して、ロンド



ンでのこのイベントを取り仕切りました。このとき、スティーヴンさんを俳句の道に導くことになった湯浅教授も招いて、後、このとき発表した論文などをまとめ「芭蕉の再発見」という本を出版しました。

環境保護活動や生け石の展示も

スティーヴンさんの現在の住まいは京都・嵯峨。英語俳句のサークル「Hail stone」の代表を務め、京大、竜谷大で比較文化学などの講義もしている。



多くの参加者があった公開例会

自宅は小倉百人一首で有名な小倉山が見える風雅なところ

だが、付近一帯の山や道には住民や建設会社が捨てたと思われるゴミがいっぱい。車から電気洗濯機まである。そこで「小倉山百人一集の会」を友人たちと組織、学生たちや外国人と一緒に

月に2回ほどゴミ拾いをし、ついでに穂垣や山道の整備、森の修復も行っている。

石のアレンジ（生け石）と山で集めたごみを一緒にし、京都のギャラリーで展示したこともある。アドベンチャー好きの性格のうえ、大学で地質学を学ぼうとしていたから石も好き。「エー！ゴミまで展示？」と驚く仲間もいたようです。

俳句を通してイギリスや日本などで多くの人に出会い、活動が広がっていった。

「俳句・haiku はすばらしい。自分にとって何が大切かを再確認させてくれる。俳句に感謝している」という。

さらに、英国の詩人、ジェームス・カーカップが「一日一句の俳句を作ることは人を健康にする効果がある（A haiku a day keeps the doctor away）」と主張していることを紹介しました。毎日のように俳句や haiku を作れば、心身ともに若さと健康を維持できる、ということです。

最後にスティーヴンさんは、ハイクを教える立場としてのキーワードとして、

① リスクをとる。

② wonder

をあげました。

冒険を試みる。日常生活の中に子供のような新鮮な驚きを感じられる心を持ち続けることが大切で、「そうすれば、びっくりするような未来が開ける可能性が生まれる」と話しました。



IINの活動記録の写真展示を見る参加者

講演の後、参加者から多くの質問や感想がありました。主な質疑応答は以下の通りで

す。

Q&A

—ある英語雑誌によると、ギルさんは日本の俳人の中で与謝蕪村が3番目に好きだと言われているようですが…。

A: 芭蕉が一番好きで多分、二番目が一茶です。蕪村も同じくらい好きです。

—多くの国でそれぞれのハイクがあり、人気が高まっていることを知り驚きました。ただ、俳句と川柳の違いはどう区別されていますか？

A: 両方がミックスされている国もあるようです。ハイクは季語を重視しますが、川柳と違っておかしさを必要としません。しかし、西欧などでは規則に縛られたくない考えの人もあり、その境界部分については未だに論争が続いています。

—英語のハイクにも切れ (break) があってカンマ、ダッシュ、コロンの句読点が使われていますが、どういうシチュエーションでこれらを使い分けするのですか？

A: 「何々や」といった「切れ」にダッシュを使うことがあります。文章の流れ、展開が変わる時に使いますが、多くのパターンがあります。技術的なことを学びたい方は私たちのサークルに来て、一緒に勉強してください。

—あなたはシェイクスピアより、芭蕉を選んだようですが、私はシェイクスピアに興味があります。中学校の先生の指導で、その作品の中の名文を100拾い出して、百人一首のように上の句、下の句を分けたカルタを作って練習しています。たとえばハムレットのなかの To be or not to be, That is a question (ながらうべきか、ながらうべきでないか、それが問題だ) など。とても面白いです。

A: 私も、シェイクスピアは好きですよ。ただ、何かの形で芭蕉に魅せられました。想像力を引っ張る、簡潔な形が私の性格に合っていたようですし、シェイクスピアの作品には演劇もありますから楽しめばいい。それにしても、シェイクスピアのカルタがあるなんて初めて聞きました。ぜひ、見せてください。



—芭蕉の奥の細道と同じ道をたどりましたか？

A: 最近では、BBC(英国放送協会)の依頼で、陸中海岸や福島での大災害後の奥の細道を訪ねましたが、あまりの惨状で限られたものになりました。

—小倉百人一首には恋の歌がたくさんありますが、俳句にはなぜ、恋の歌がないのでしょうか？

A: 俳句は主にスケッチ(写生)的なもので、観察を求められるのに対し、和歌・短歌は emotional。対象、狙いが異なるからだと思います。また、俳句は短かすぎることも理由では。

以上